

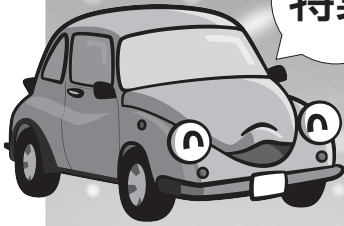


道の駅

「近説遠来」型の道の駅

特集

道の駅石狩 「あいろーど厚田」



石狩市役所 厚田支所 地域おこし協力隊 飯塚 諒

1. 石狩市について

石狩市は札幌市の北側に隣接し、総面積は722.42平方キロ、東西28.88キロ・南北67.04キロと南北に広がるまちです。江戸時代初期には河口部流域が「場所」（交易を行う範囲）に指定されたことや交通の要所であったことから、西蝦夷地の中心地として重要な役割を果たしていました。2005年（平成17年）10月に石狩市・厚田村・浜益村が合併し、現在の石狩市となりました。

海産物や、希少な食材の生産と消費を守る取り組み「味の箱舟」に登録された重さ20キロにもなるキャベツ「札幌大球」などの農産物もあり、豊富な食材が揃うことも魅力の1つです。また、北海道の郷土料理である「石狩鍋」は石狩市発祥であり、サケの身のぶつ切りやキャベツなどの野菜を具材とする、まさに石狩の魅力が詰まった料理であると言えます。



図-1 石狩市



写真-1 石狩鍋

2. 道の駅の概要

道の駅石狩「あいろーど厚田」は2018年（平成30年）4月27日にオープンした北海道で120番目の道の駅です。施設は国道231号線に接し、札幌市中心部から車で約90分移動することで日本海や山々に囲まれた自然豊かな場所に着き、周辺ではキャンプや海水浴、朝市といった体験観光が楽しめることから、ピークである夏季（7・8月）には約10万人の方にお越しいただいています。

基幹産業は、サケやニシンに代表される漁業と多様な農業です。ホタテ・ウニ・タコ・ナマコなどの



写真-2 厚田港朝市の様子

(1) 駅名の由来

あいりーどの「あい」は石狩市の頭文字「I」、厚田区で古くから幸せを呼ぶ風として親しまれてきた「あい風」、浜益区の景勝地「愛冠岬」の「愛」、そしてこの3つの地区を繋ぐ国道231号線を「あいりーど」と呼んでおり、道の駅を石狩市の地理上の中心である「厚田区」に設置したことから「あいりーど厚田」としました。

(2) 施設の特徴

道の駅は日本海に面した鉄筋コンクリート造りの3階建てです。外観は、厚田の空や緑の風景を写し込むようにガラス張りを中心とし、ガラスの両端部は、斜めに特徴的な形状にし、船が進むような勢いのあるイメージをもたせています。外壁は、黒を基調とした落ち着いた色調となっており、アクセントカラーとして海の色である「青」や、波をモチーフとした模様を取り付けています。



写真-3 道の駅外観

1階には24時間トイレと飲食スペース・地場産品販売コーナーがあり、ホールは吹き抜けで開放的な空間となっております。道の駅では珍しいエレベーターやエスカレーターが設置され、バリアフリーに対応しているため身体の不自由な方でも安心してご利用いただけます。

2階にはテイクアウトコーナーがあり、景色を眺めながら飲食できるスペースがあります。また、自然・歴史展示コーナーには、厚田発展の基となった北前船との交易やニシン漁の様子を、浜益区在住の人形作家である八田美津さんの作品を活かして再現したジオラマがあります。他にも厚田出身の偉人を紹介する文学・芸術コーナーも常設しているため、風景を見るだけではなく地域の歴史や文化にふれることもできます。

3階には展望デッキがあり、厚田の街並みや日本海に沈む夕日を眺めながらゆっくりと過ごせる…なんていうのは、道の駅ならではの楽しみ方なのではないでしょうか。このような点が評価され、国土交通省北海道開発局の『完走者が選ぶ北海道「道の駅」ランキング「景色がきれいだと感じた道の駅部門」』で2年連続2位を獲得しました。



写真-4 道の駅から見た夕日

屋外にはふわふわドームが楽しめる「こども広場」があるほか、正面入り口前のイベント広場に石積スタンドを設置し、様々なイベントの開催にも活用出来る外構となっています。



写真-5 ふわふわドーム



写真-6 石積スタンド

(3) 売店・テナントについて

1 階の売店には、石狩・厚田・浜益の特産品が集まっており、その数なんと 600 種類以上。厚田には元々「厚田もなか」しか厚田の名の付くお土産が無かったため、道の駅開業に向けて地元のお店や有志団体が新しく商品を開発。その結果、厚田産カボチャを使った「厚田饅頭」や、石狩に本店を置く「徳光珈琲」とコラボしたブレンドコーヒーなどのオリジナル商品が生まれました。

道の駅内では、現在飲食店が 4 店と、国道を挟んだ向かい側の「道の駅 ANNEX」に 1 店が営業しており、それぞれ石狩の素材を活かしたメニューを取り揃えております。

① 十割蕎麦「一純」

厚田産そば粉を使った十割そばにニシンの甘露

煮をのせた名物「にしんそば」が味わえます。また、ニシンの刺身丼は旬の雄のニシンを急速冷凍しているため、鮮度抜群で臭みがなく、身が締まったコリコリ食感を堪能できます。他にも、厚田産のななつぼしとおぼろづきをブレンドした大きなおにぎりは満足間違いなしの一品。



写真-7 にしんそば

② 「GELATO Lico Lico 厚田店」

浜益区のリンゴを使用した「きむら果樹園 100 年リンゴのソルベ」など地元食材を使用したものから、「さくらベリー」や「レモンソルベ」など季節限定のフレーバーもあり、月替わりで約 10 種類が並びます。



写真-8 ジェラート

③ 「Bakery & Pizza HOME」

ピザは注文を受けてから焼き上げており、厚田産タコを使用した「タコのマリナーラ」や厚田のブランド豚「望来豚」を使用した「望来豚スペシャル」が味わえます。ジューシーな望来豚のフランクフ

ルトや、焼き立てのカスタードが入ったメロンパンなどラインナップも豊富です。



写真-9 望来豚スペシャル

④「石狩二三」

売り切れ必至の石狩名産ニシンを使用したバッテリー「ニシンと数の子の親子押し寿司」は、独自の製法で味付けした上質な数の子が入っており、お土産人気ナンバー1です。旬の季節になると販売する甘だれの効いた「シャコの押し寿司」も人気です。



写真-10 ニシンと数の子の親子押し寿司

⑤「にしん街道 ヤン衆の店」

2020年(令和元年)7月に開店した、漁師直営の海鮮カレーなどが楽しめるお店。前浜で獲れたホタテがのった「ホタテカレー」が人気です。天気の良い日には、石狩湾を一望するテラス席で美しい景色と心地よい潮風を感じながら味わえるのも魅力です。また、ソフトクリームや10種類以上のフレーバーから選べるかき氷もおすすめです。



写真-11 ホタテカレー

3. 重点道の駅が目指す近説遠来

道の駅石狩「あいろーど厚田」は、国土交通省が認定する《重点道の駅》に選定されています。これは、「地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できる」道の駅が選ばれるものであり、後述する「近説遠来」の思想が評価されたものでした。

(1) 合併による地域協議会の設立

2005年(平成17年)の合併により旧厚田村が自治区「厚田区」になった時、新たに「厚田区地域協議会」が生まれました。地域住民によって構成されるこの組織では、少子高齢化や人口減少などの地域課題を洗い出し、解決に向けて協議・実践していくことで、市の施策の審議や住民の意思を反映した特色ある地域づくりに取り組んでいます。協議会での話し合いをきっかけに「NPO法人あつたライフサポートの会」という高齢者等の移送・除雪をサポートする団体や「厚田区コミュニティゆめ倶楽部」というスポーツ・食を通じた地域振興団体が生まれ、さらに厚田区が活気づいていきました。

2013年(平成25年)12月には、こうした地域振興活動の拠点となる施設の整備を目指し「複合施設建設構想委員会」を立ち上げ、それから1年半、16回の会議を経て取りまとめられた「厚田複合施設建設構想」が、今回の道の駅に繋がっていきました。

(2) コンセプトは「近説遠来」

構想委員会で議論を重ねていく中、複合施設を含む厚田全体に対する一つの思想にたどり着きます。それが「近説遠来^{きんせつえんらい}」です。近説遠来とは「住んでいる人が喜んで暮らしていると、遠くからも人が来る」という意味であり、論語の中で、「国を善く収める決め手は？」という質問に対して孔子が答えた言葉です。団体の活動によって住民一人一人が地域活動などに参加し、楽しみ、厚田を好きになり、厚田の良さを活かした様々な活動が生まれていく。そんな近説となるような活動や自然・歴史・食等を発信し、形にしていくことで、遠来へのきっかけを作る情報発信拠点となることを目指し運営しています。

(3) 着地型観光に向けて

また、道の駅を地域の観光拠点にするために新たな活動団体も生まれました。それが「厚田着地型観光まちづくり協議会」(現在は北石狩地域観光まちづくり協議会)です。この団体では、道の駅の開業に向けて厚田・浜益地域に、より多くの観光客を呼び込むために、観光ツアー商品の開発や民泊セミナー、おもてなしセミナーなど、地域の人が潤う仕組みづくりの検討や来訪者の受け入れに必要なスキルについて講座を開催しました。また、地域の資源を掘り起こすため、2018年(平成30年)には「厚田のニシン」や「浜益の100年リンゴ」をテーマにしたバスツアーを企画し、旅行会社と連携して実施したほか、厚田・浜益の北石狩地域に特化した観光案内ルートなどを紹介した「とっておき石狩」というパンフレットを製作し、地域の観光資源をPRしています。



写真-12 バスツアーの様子

(4) 厚田学園とのコラボ

昨年度末より発売している、石狩二三一の新商品「厚田いなり」。こちらの商品のパッケージは、厚田区の小中一貫義務教育学校「厚田学園」の児童・生徒が、地域を学ぶ総合的な学習の時間「厚田学」の中で考案しました。授業の中では、3年生以上が参加し、計5グループがプレゼン。地元の食材や風景の絵を描き散りばめたパッケージを発表した3・4年生のグループがメインとして採用され、その他のグループの絵も一つずつ加えることで完成しました。



写真-13 厚田いなり

4. 今後の展望

予想を上回る多くの来客数となっている道の駅ですが、今後も地域との関わりをより強めていきたいと考えています。

まずは、地場の物を使った商品開発をすることで

販売促進を行い、地元の物産振興を目指します。今までも「100年リンゴパイ」や「かぼちゃパイ」、「厚田のかぼちゃ饅頭」といった商品や、今春には市内にある洋菓子店が厚田のいちごを使用した「いちごプリン」など新たな商品開発をしております。今後も生産者と地場企業の橋渡しなど、道の駅オリジナルの商品づくりを進めていく予定です。



写真-14 いちごプリン

さらに、着地型観光については、国がサイクルツーリズムの普及促進を図っているため、石狩市においても「石狩市自転車活用推進計画」を策定しました。日本海沿いの絶景を求めて高まるサイクリングニーズや、市街地において自転車が安全快適に走行できる環境整備を進めるため、自転車走行環境の改善や受け入れ環境の整備をしていき、道の駅をサイクルステーションとして、サイクルラックや空気入れ・工具の貸し出し、タイヤチューブの販売、他にも車に自転車を積んで停められるシックスホイールパーキングを設置しています。今後、電動アシスト付き自転車のレンタル事業を計画し、市街地やキャンプ場との周遊の足として観光も気軽に行えると思います。



写真-15 サイクルラック

冬期間は、荒天によって来客者が極端に少なくなるなどまだ課題はありますが、地域のサークルや厚田学園等が展示・発表する場として活用して頂ければ地域コミュニティの活性化に繋がると考えています。ゆっくりと読書をしたり、コーヒーを飲んでくつろいだりと、より自由に、冬ならではの使い方を地域みなさんと企画・実践していく予定です。

コロナ禍における密を避けた旅行として、自宅から1～2時間圏内を巡る日帰り旅行が注目され、道の駅など市内の観光地を訪れる方がたいへん多くなっており、この状況は今後しばらく続くものと予想しています。こうした方をターゲットに、2階に情報発信用の掲示ボードを新たに設置し、飲食店や各漁港で行われている朝市の情報、体験型プログラムを紹介するなど、石狩北部の拠点施設として、地域を盛り上げていければと思います。

地域の方々と共に成長し、「近説遠来」を発信する道の駅として石狩市の活性化に繋がっていきます。

飯塚 諒 (いいつか りょう)

石狩市役所厚田支所 地域振興課
地域おこし協力隊

